

- | |
|--------------------------------------|
| ・日時 : 2018 年 8 月 7 日 (火) 14:30~15:30 |
| ・スピーカー : 取締役 最高財務責任者 (CFO) 松本 智樹 |

<営業利益増減分析に関して>

Q. 通期計画では拡販を増益のドライバーとしているが、1 Q での拡販の進捗の状況は

A. 1 Q で好調なものは、日本の大豆たん白素材やチョコレート、中国のマーガリンやフィリングなどが挙げられる。一過性の要因による鈍化は、日本の水溶性大豆多糖類や、寒波による工場停止の影響を受けた米国油脂である。東南アジアおよびブラジルは、計画に対して販売数量は下回っている。拡販による売上高伸張を重視し、戦略商品や戦略エリアを明確にして事業を進めていく。

<日本について>

Q. 1 Q は油脂事業で採算性向上があったとのことだが、その継続性は

A. 今期の 3 Q までは堅調に推移するとみている。

Q. 製菓・製パン素材事業の動向は

A. チョコレートは好調を継続している。クリームは底打ち感があるが、マーガリン・フィリング等が想定を下回っている。

Q. 大豆事業は 1 Q が減益だが、その要因は

A. 大豆たん白素材は引き続き好調に推移している。また、水溶性大豆多糖類は、1 Q に生産トラブルの影響があったが、2 Q 以降は飲料需要などにより増加を見込む。想定を下回ったのは、大豆たん白食品である。5 月までかかった工場改修終了後の拡販が遅れており、下期に向けて改善を図る。

<アジアについて>

Q. 東南アジアの油脂事業・製菓・製パン素材事業の減益要因は

A. 油脂事業は、川上に近い油脂分別事業を営む拠点において、コモディティ製品群の販売鈍化によるものである。また製菓・製パンについては、調製品事業における乳製品原料相場の下落による影響が大きい。

Q. 中国の製菓・製パン素材事業につき、増益基調への転換の背景は

A. 前期に関しては、共通経費の配賦組み換えなどもあり減益であった。中国の製菓・製パン事業は、パン需要の拡大に応じた投資を行っており、新工場が 7 月に稼動し費用が発生する。需要の裾野の広がりに加え、不二ブランドの広い地域での定着により、力強い成長を果たす可能性があると考えている。

<ブラジルについて>

Q. 2 Q 以降の外部環境の変化に伴う影響や、新製品による拡販計画の進捗は

A. 為替環境や他社との競争により、事業環境は厳しい。新製品による数量拡大は厳しいが、採算を重視しながら利益を確保していく。

以上